

令和５年度麻績村農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、標高６００mの掌状の盆地に耕地が分布しており、全耕地面積に占める水田の割合が６０％で基盤整備率が９７％と進んでおり、稲作を中心とした地域である。一方、従事者の高齢化、担い手不足など、依然として地域農業を取り巻く情勢は厳しく、農地の遊休荒廃化は避けられない現状である。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農業者の所得向上を目指し、地域の実情に合った作物の選定をおこなう。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

担い手や労働力の状況に照らし合わせ、水田のまま維持し続けるか検討を行う。また、水張りを行うことが不可能な状況でありながら畑作物を生産し続けている水田がなにか点検を行い、畑地化支援を活用した畑作物化や地域におけるブロックローテーション体系構築の検討を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(１) 主食用米

目安値に沿った作付面積を確保するとともに、地域の生産環境に適した品種、肥培管理方法の確立や栽培技術の高位水準化に努め、品質・食味の向上と生産の安定化を図る。

(２) 備蓄米

取り組みなし。

(３) 非主食用米

ア 飼料用米

実需者との提携による契約栽培や供給ルートの拡大など、供給計画に基づき、計画的に取り組む。また、多収性専用品種を作付けし、疎植栽培を行うなど、低コスト栽培を推進することにより、収益力向上を目指す。

また、作付面積を拡大して生産性向上を目指す。

(４) 麦、大豆、飼料作物

土地利用型農業を支える基幹作物として、また、水田裏作の有効利用、土地利用率の向上を図る観点からも非常に重要な作物である。麦・大豆を主体に栽培する担い手への土地利用集積を一層進めるほか、集落営農組織等を対象に作付け拡大を推進する。また、栽培管理技術の徹底により、高品質化と安定供給を図るとともに、地産地消システムにより需要の拡大を目指す。

(５) そば、なたね

需要に応じた生産に向けた周年作を主体に、重要な振興作物として作付けの本作化を図る。単収の向上と安定化により生産拡大を図るためには、排水対策の徹底が極めて重要であり、農業改良普及センターや農協等と連携し、基本技術の励行について引き続き指導を行う。これにより、品質の維持・向上を図るとともに、加工・販売の６次産業化を推進する。

(6) 高収益作物

地域の特性を発揮できる品目「マコモダケ等」を選定するとともに、販路を確保したうえで将来の産地化を目指した生産を推進する。また、統一した栽培方法で作付けが行われるよう誘導し、消費者・実需者のニーズに応えることができる計画的・安定的な生産を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	117.3		115		115	
備蓄米						
飼料用米	8.2		9.2		9.2	
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米						
麦	9.9		10.0		10.0	
大豆	0		0.1		0.1	
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば	8.4		9.00		9.0	
なたね						
地力増進作物						
高収益作物						
・野菜	1.6		2.3		2.3	
・花き・花木	0		0.02		0.02	
・果樹						
・その他の高収益作物						
その他						
・〇〇						
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米【基幹作物】	飼料用米の生産性向上 支援	作付面積（飼料用米） 単収（飼料用米）	（2022年度）8.2ha （2022年度）635kg	（2023年度）9.2ha （2023年度）637kg
2	そば【基幹作物】	そばの生産性向上支援	作付面積（そば） 単収（そば）	（2022年度）8.4ha （2022年度）29.5kg	（2023年度）9.0ha （2023年度）30.5kg
3	麦・大豆【基幹作物】	麦・大豆の生産性向上 支援	作付面積（麦・大豆） 単収（麦） 単収（大豆）	（2022年度）9.9ha （2022年度）261kg （2022年度）67.5kg	（2023年度）10.0a （2023年度）262.5kg （2023年度）68.5kg
4	野菜、花き・花木（別紙 1）【基幹作物】	高収益作物（野菜、花 き・花木）の生産支援	作付面積（高収益作物）	（2022年度）1.6ha	（2023年度）2.32ha
5	そば【基幹作物】	そばの取組（地域の取 組に応じた配分の対象 分）	支払い対象面積	（2022年度）8.4ha	（2023年度）8.8ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:長野県

協議会名:麻績村農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取組要件等 ※4
1	飼料用米の生産性向上支援	1	22,000	飼料用米【基幹作物】	多収品種の作付け、疎植栽培の実施
2	そばの生産性向上支援	1	10,000	そば【基幹作物】	ほ場内明・暗きよの施工等の排水対策、適正な肥培管理
3	麦・大豆の生産性向上支援	1	10,000	麦・大豆【基幹作物】	ほ場内明・暗きよの施工等の排水対策、適正な肥培管理
4	高収益作物(野菜、花き・花木)の 生産支援	1	10,000	野菜、花き・花木(別紙1)【基幹作物】	対象作物の生産・販売
5	そばの取組 (地域の取組に応じた配分の対象分)	1	20,000	そば【基幹作物】	実需者との契約に基づく生産・販売

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

(別表1)野菜、花き、花木の範囲

野菜

アスパラガス、イチゴ、カボチャ、スイートコーン、ズッキーニ、タマネギ、トマト、ナス、ネギ、ハクサイ、バレイショ、ピーマン、フキ、ブロッコリー、ホウレンソウ、マコモダケ、ミョウガ、パプリカ、加工用トマト、つけうり、小松菜、ミニトマト、エゴマ、ゴマ、ケール、ニンニク

花き

アヤメ、コスモス、ナノハナ、バラ、リンドウ

花木

ウメ、クリ、リンゴ